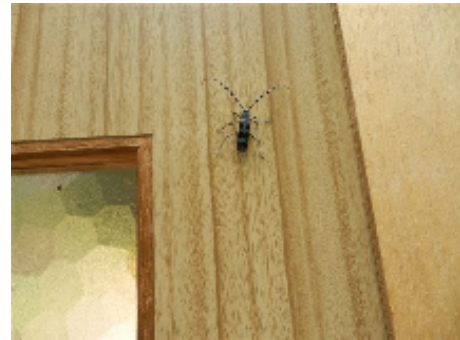


ルリボシカミキリ



美しいカミキリです。ルリボシカミキリといいます。2015年7月29日9時32分、澄川森林の当協会の基地の積薪に寄ってきたところを捉えまして撮影しました。汚れた作業手袋は筆者の左手ですから大きさが分かりますね。体長は16~30mmほどで、この固体は20mm程度でした。触角が体長よりも長くて体型はカミキリ虫の標準的な形であります。

分布は日本全土で日本固有種とのこと。美しい瑠璃色と黒とのコンビのバランスが素敵です。ところがこのカミキリは標本に出来ないのです。死ぬと変色して朽ち落ち葉色になって、なんとも汚くなってしまいます。生きていればこそその美しさなのです。カミキリ仲間はもちろんのこと、全日本昆虫の中でもこの虫が一番美しいと認めている虫キチは多いそうです。そんな虫が澄川にいてくれることは嬉しい限りであります。幼虫はブナ科、クルミ科の朽木を好むとのこと。幼虫期間は3年。澄川森林にはわれわれが伐採して林床に放置している食材が豊富な筈で、大いに繁殖していただきたいものですが、全国的には希少種のようにあります。この日奥の物置の扉に止まってくれた別の個体にも出会いました。ノコギリカミキリもうようよとして、今カミキリたちの恋の季節なのです。



澄川森林の沢にヘイケボタルが生息していることが判明して以来、毎年この7月末日には炭焼きを兼ねたホタル観察会をします。炭焼きは着火してから密閉するまでに時間がかかりますので、朝8時に着火しても、夜遅くなってやっと密閉となります。移動式簡易炭窯の構造上、1時間おきに空気取り入れ口と排気の煙突口を取替える必要がありますので、止む無く泊り込みのメン



テとなるわけであります。煙突のローテーション作業は3分とかからないので、次のローテまでは手持ち無沙汰となりますので、ホタル観察を楽しむわけです。それ以外は蒸し暑いなかで眠くなるまでビールでの酒盛りで時間を潰すこととなります。煙突の煙を観察して密閉のタイミングの判断が大切で、これの善し悪しが歩留まりを左右します。年に1回の機会しかなく、今年はニセアカシヤ材の試験炭化なので、窯開けが楽しみであります。